



○ ジブリⅢ

IT ビジネス科のアクティビティのまとめをしているところにお邪魔しました。ちょうど活動の日のことを振り返りながら満足度を%で表現しているところでした。私自身の採点は87%でしょうか。学生と行動を共にすることがほとんどできなかったことでマイナス6、私の鑑賞方法では作品数が多すぎて疲れてしまったことでマイナス7というところです。

学生のザビエル記念聖堂での撮影活動では床に腹ばいになりながらという行動もあったようです。なかなか意欲的ですね。そういった動きを認めてくださった聖堂の関係者の皆様ありがとうございました。はたから見れば不思議な男子グループのように見えたことでしょうか。身の回りの情景を意図して切り取ろうとするときは通常の生活の行動から解放される必要があります。動物写真家の岩合光昭氏の撮影情景を紹介しているテレビ番組があります。それを見ると氏は猫に寄り添い、話しかけ、寝ころび、時には猫になりきっておられます。カメラを持っていなかったら不審者に見えますね。そのような感じで学生が撮影したものの内の一つが右下の写真です。また、まとめのレポートから抜粋して次に紹介します。 ※文章表現は少し簡略化しています。

エンディングも含めて一つの作品だという制作陣の思い 実物を見ることでしか
味わえない感動を堪能 直接目を通して見るものなのでよりリアリティが 張
り切って写真を撮影したので枚数が多くなったが、もちろん後悔は全くしていない
絵の描き方やカメラワークの使い方などが学べて勉強になった。これからも色々な展
示会にいきたい。 まるでアニメーションの世界に入り込んだ感じがしました。



二十歳くらいの若者の意見、話し合いを聴いていると私にもいろいろな発見があります。彼らが成長してきた段階ではジブリのアニメ制作は終了しつつありました。そのため、全部は見えていないのです。私はほぼすべて見てきました。当然のように私の娘もほぼすべて見ています。「トトロ」などはVHSのビデオを購入して、まさに擦り切れるくらい見ました。我が家の子どもも二姉妹なので、よけいに感情移入をしてしまいます。同じ作品を見ても感動するところ、印象に残るところは人(年齢なども)によってそれぞれ違いますね。教室では学生たちに「千と千尋の～」で私が感動したところを紹介しました。個人的な内容なのでここでは省略します。あの時は親の視点でした。

自校自賛

先日、学校行事のスポーツ大会が行われました。IT ビジネス学科、子ども学科の1・2年生が交流する機会というのは案外と少ないものです。親睦の意味も込めて学生会が中心となって企画・進行を行ってくれました。私も全部に参加しようと思っていましたが、数日前に「ぎっくり腰」になってしまい、残念ながら応援の方になりました。工夫された内容により、みんなが楽しく参加しており、よい大会になりました。最後の方で一躍脚光を浴びた1年生がいました。吉谷さんです。クジの偶然でしたが、大変盛り上がりました。学生会の2年生がかかわる大きな行事はこれで終わりになります。これからは就職活動、保育実習、各種試験(レポート)対策などで忙しくなります。来春の夢の実現に向けて頑張ってもらいたいものです。やはり2年間というのは速いですね。

